2026

養父市の社会的処方の取組に対する

健康影響予測評価 報告書

参考資料編

A．スクリーニング

(1) スクリーニングの方法

本市の社会的処方の取組の実施により想定される影響（良い・悪い）を幅広く把握し、評価項目の選定の基礎資料とするため、①実施主体の職員による意見出し②文献調査によるスクリーニングを行った。

① 実施主体の職員による意見出し

これまでに事業推進に関与してきた職員を対象に、約2時間の会議を開き、模造紙と付箋を用いて、本プログラムの対象者はどのような課題・ニーズを抱えているか」と「本プログラムの実施がどのような影響（便益・不利益）をもたらすと想定されるか」を事前に整理した。

② 文献調査

想定される影響領域・項目を網羅的に把握することを目的に、国内外の社会的処方の効果評価に関する主要レビュー論文3本と、NHS England の報告書を参照して整理した。抽出後、重複・類似する項目を統合し、それぞれ個人・コミュニティ・システムレベルの観点で分類した。

1） Polley M, Whiteside J, Elnaschie Sand Fixsen A. What does successful social prescribing look like? Mapping meaningful outcomes. London (UK): University of Westminster; 2019. 61 p.

2） Sonke J, Manhas N, Belden C, Morgan-Daniel J, Akram S, Marjani S, Oduntan O, Hammond G, Martinez G, Davidson Carroll G, Rodriguez AK, Burch S, Colverson AJ, Pesata V, Fancourt D. Social prescribing outcomes: a mapping review of the evidence from 13 countries to identify key common outcomes. Front Med (Lausanne). 2023 Nov 7; 10:1266429. doi:10.3389/fmed.2023.1266429.

3） Ashe MC, Dos Santos IK, Alfares H, Chudyk AM, Esfandiari E. Outcomes and instruments used in social prescribing: a modified umbrella review. Health Promot Chronic Dis Prev Can. 2024 Jun;44(6):244-269. doi:10.24095/hpcdp.44.6.02.

4） National Health Service (NHS). Social prescribing and community-based support: summary guide. London (UK): NHS England; 2021.

⑵ スクリーニングの結果

① 実施主体の職員による意見出し

意見出しの結果を以下の表に示す。この段階では、影響の確実性や推移（時間経過による変化）までの議論には至らなかった。併せて現時点では、具体的な対象者像については共有ができなかった。

健康の決定要因	健康影響項目	P/N
疾患	自分の病気を理解する	P
個人の生活習慣	他力本願になってしまう 自立をじゃましてしまう	N N
サービスの受けやすさ	サービスに依存してしまう サービス漬けになってしまう	N N
労働環境	短時間・長期で働ける場所が増える	P
社会的影響（家族や地域とのつながり）	周りの人達が声をかける 連絡が取れるようになる 周りの人が面倒になってしまう （周りの人の）負担が増える	P P N N
その他	その人らしい生活が送れるようになる	P

② 文献調査

文献調査により、個人・コミュニティ・システムの各レベルにまたがる多様な影響項目が整理できた。

1） 個人レベル

1. ウェルビーング
精神的ウェルビーング、身体的ウェルビーング、社会的ウェルビーング、QOL、一般的健康、幸福感の向上
2. 生理学的・臨床的アウトカム
身体活動量、体重・BMI、体組成、血圧、慢性疾患の状態、痛み、フレイル、筋力、認知機能等の改善
3. 心理的アウトカム
不安感、孤独感、抑うつ、苦痛の軽減、気分・自己効力感・自尊心の向上。
4. 生活習慣・行動
自己管理能力・主体性、自立度、生活能力、食生活、喫煙・飲酒行動等の改善。
5. エンパワーメント/精神的アウトカム
楽しさ・充実感、生きがい、意欲、人生の目的意識、自信、自己肯定感、人生満足感の向上
6. 人間関係・社会的つながり
周囲からのサポート、友人・近所との関わり、帰属感、居場所、社会活動参加、支えられている／傾聴されている感覚の向上
7. 福祉・生活基盤
就労活動、教育／資格／スキル、サービス利用アクセス、住環境の改善

2） 地域コミュニティレベル

1. 地域のつながり・基盤
住民間の相互支援、世代間交流、地域ネットワーク、新たな市民グループ形成、地域資源（支援・施設）へのアクセス向上、帰属意識・一体感の向上
2. 地域活動への参加・担い手
地域活動参加率、ボランティア活動の数、地域の就労支援、地域活動の担い手増加
3. 家族・介護者支援
家族・介護者への支援の充実
4. コミュニティ側の負担
地域活動団体やボランティアの負担増加
5. 利用格差
活動や居場所の利用のしやすさ（利用格差）が縮小する場合は良い影響、拡大する場合は悪い影響
6. 経済
仕事・雇用機会の創出、文化活動やイベント参加による地域内消費の増加、地域における雇用・仕事の担い手増加。
7. 環境
CO2 排出量の削減

3） システムレベル

1. サービス利用・アクセス
医療機関への紹介、NPO／ボランティア等への紹介、かかりつけ医等受診、精神保健・社会福祉サービス利用の適正化、救急利用・入院・外来受診の変化（適正化が期待される）
2. 連携・協働
医療・介護・福祉サービス連携、機関間（行政・NPO・医療・介護）協働、多職種連携・チームワークの向上
3. 体制・選択肢
ケアの選択肢、保健・福祉体制の充実。
4. 費用・財政
中長期的には医療費・介護費・薬剤費・総ケアコストが減少する（良い影響）、短期的には増加する（悪い影響）
5. 人材・組織
支援者の知識・スキル向上（良い影響）、かかりつけ医・支援者（リンクワーカー等）の業務負担増加、支援者のウェルビーング低下／バーンアウト、離職率上昇（悪い影響）

⑶ その他

意見出しと文献調査の結果を踏まえて、再度検討を行った際に以下の悪い影響が意見として出た。

既存サービスとの関係
従来サービスとの競合・調整（役割の重なりや混乱）が生じる場合は悪い影響となり得る
既存の努力の評価

従来の地域活動や専門職の努力が尊重され評価される場合は良い影響、否定されたように受け止められる場合は悪い影響となり得る

⑷ 重点的に評価する項目

整理した影響項目の中から重点的に評価する項目を選定した。実施主体内で、以下の表の4つの基準に基づき、各アウトカム項目の関連性・重要性・測定可能性を総合的に検討した。

① 本プログラムの政策的文脈において重要なアウトカム項目であること 本市の社会的処方推進事業や関連施策の目的と整合しているか ② 本プログラムの対象者が抱える課題・ニーズの特徴と関連性が高いこと 医療機関や庁内等からの紹介ケースで実際に観察される課題との対応はあるか ③ 定量的な指標が存在していること 行政統計、既存調査などで測定可能なデータ項目であることを確認した。 ④ 事例調査やワークショップにおいて評価可能な項目であること 事例の分析や関係者の経験を通じて、変化を把握・議論できる性質を有するかを検討した。

B．スコーピング（仕様決定）

⑴ 目的

本評価の主目的は、本市の社会的処方の取組がもたらす多面的な影響を把握し、得られた知見を基に社会的処方の取組の質の向上に資する改善策を作成することである。併せて、副次的目的として、本評価の実施過程を通じて関係者間の理解促進と共通認識の形成を図り、多職種・多機関のさらなる参画と連携の強化につなげることを目的とする。

⑵ 健康影響予測評価とは

健康影響予測評価（Health Impact Assessment: HIA）とは、政策等が健康にどのような影響を及ぼすかを、定量・定性データを用いて事前に予測、評価することにより、この政策等による健康への良い影響を促進し、かつ悪い影響を最小化にするための改善策を作成し、その政策を最適化していく一連の過程とその方法論のことである。

HIAにおける健康には、健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health: SDH）を含む。また、HIAの目的は、将来予測ではなく、改善策を作成することにある。

HIAは、広く影響評価（Impact Assessment）と呼ばれる手法の１つであり、WHO をはじめ、諸外国において、国や自治体等の意思決定を支援するツールとして活用されている。HIAは、健康政策をはじめ、教育、住宅、雇用、交通、都市計画など、様々な政策分野で活用されており、その対象には国や自治体、事業者などが提案する全ての政策、施策、事業、計画などが該当する。

⑶ 本評価の意義

① 住民に対する意義

本市の社会的処方の取組の改善の方向性を、科学的根拠に基づき明確化することで、取組による良い影響を最大化し、住民の健康やウェルビーングの向上につなげる。

② 実務者に対する意義

取組内容及び取組がもたらす影響に対する理解を深めるとともに、HIA の過程における多様な利害関係者の参画と合意形成を通じて、信頼関係と共通認識の形成を促進する。

③ 行政に対する意義

科学的根拠に基づき次年度以降の取組方針の決定を推進する、また、部署間連携を強化するとともに、他部局や関係者に対する説明責任の遂行に資する。

⑷ 評価対象について

① 本市の社会的処方の取組

評価対象は、「社会的処方の取組（医療機関と連携した相談支援・参加支援・地域づくりのプロセスと、それらを支える一連の事業や活動を言い、市の社会的処方推進事業として取り組んでいるもの）」とする。

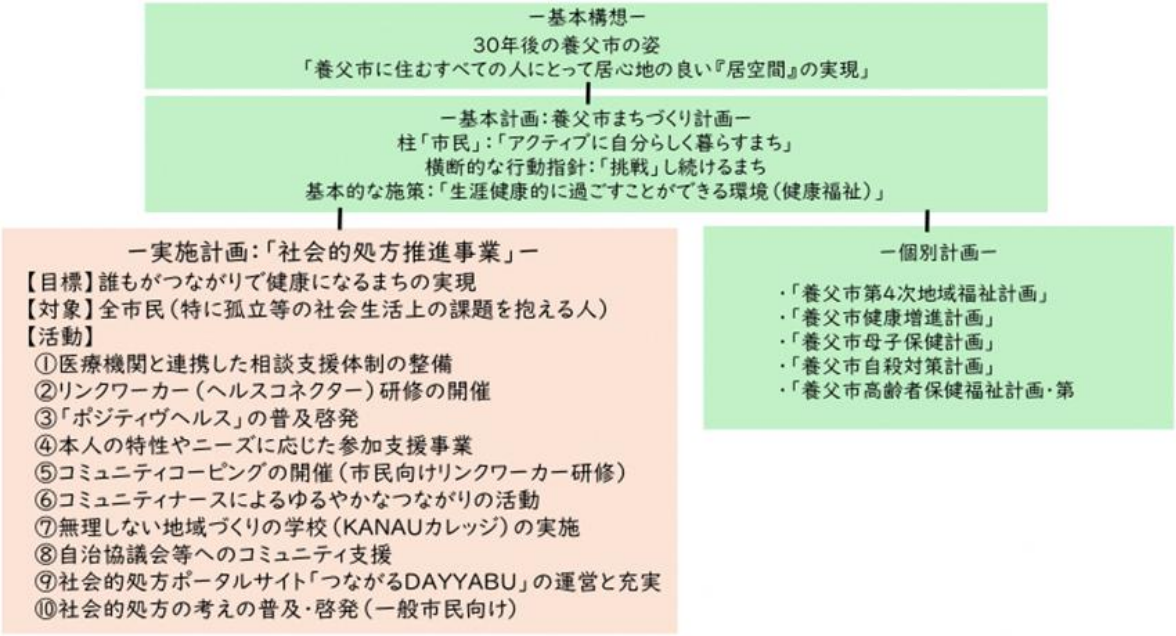


図1 本市の社会的処方の取組の位置づけと概要

② 養父市 社会的処方推進事業の概要

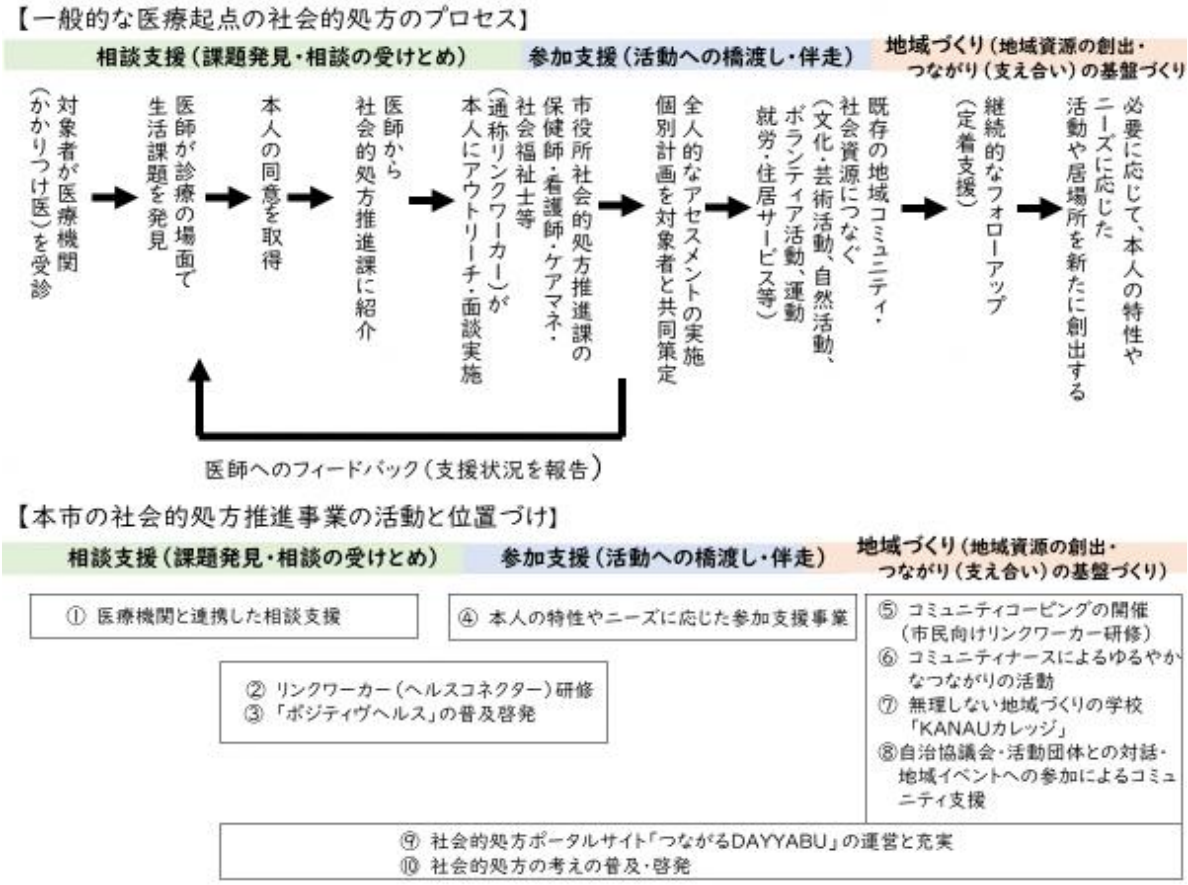
本市の社会的処方推進事業は、令和 4 年度の厚生労働省モデル事業を契機に、社会的処方の仕組み化のために10の事業や活動を展開している。その概要を以下の表に示す。

ビジョン	つながりで誰もが健康になるまちの実現
最終目標	健康寿命の延伸、主観的幸福感の向上
目的	社会を取り巻く環境が複雑化、多様化し、人々が生きづらさを感じる状況の中で、「社会や人とのつながり」を処方することで、個々が抱える問題を解決しようとする「社会的処方」の考え方をまちづくりに取り入れ、予防の観点から推進し、市民の健康やウェルビーングの向上に寄与すること
対象者	全市民（特に孤立等の社会生活面の課題を抱えている市民）
活動	① 医療機関と連携した相談支援 ② リンクワーカー（ヘルスコネクター）研修の開催 ③ 「ポジティヴヘルス」の普及啓発 ④ 本人の特性やニーズに応じた参加支援事業 ⑤ コミュニティコーピングの開催（市民向けリンクワーカー研修） ⑥ コミュニティナースによるゆるやかなつながりの活動 ⑦ 無理しない地域づくりの学校（KANAUカレッジ）の実施 ⑧ 自治協議会等へのコミュニティ支援 ⑨ 社会的処方ポータルサイト「つながるDAYABU」の運営と充実 ⑩ 社会的処方の考えの普及・啓発（一般市民向け）
実施主体	養父市健康福祉部社会的処方推進課
関係機関	庁内（健康福祉部健康医療課、社会福祉課、介護保険課、教育部子ども学び課、こども・夢・えがお部子育て応援課）、市内医療機関、市内歯科診療所、社会福祉協議会、その他市内の民間支援事業所やNPO等
実施期間	令和4年度モデル事業を起点とし、改善を図りながら、事業継続中
実施規模	養父市内全域

③ 養父市 社会的処方推進事業と相談支援・参加支援・地域づくりとの関係性

本市の社会的処方推進事業は、以下の図に示す社会的処方の一般的なプロセス（医療や地域の場において社会的課題を抱える人を見つけ、相談役のリンクワーカーにつなぎ、適切な地域コミュニティや社会資源に橋渡しをする）を、全市的に展開することを目的として設計されている。

具体的には、活動①「医療機関と連携した相談支援」を中核として、全10個の活動を事業化することで、この「気づき・相談支援・つなぎ（参加支援）」の流れを拡大・強化するとともに、受け皿となる地域の居場所や活動を拡充させる「地域づくり」にも注力することで、より多くの住民が必要な支援や地域コミュニティにつながる体制構築を図っている。



④ 本市の社会的処方推進事業 活動概要

1） 医療機関と連携した相談支援	
活動内容	孤立や複合的な課題を抱える住民を、医療機関から行政の相談窓口につなぐ仕組みを整備し、潜在的なニーズの早期発見と必要な支援への接続を図っている。かかりつけ医が診療を通じて、生活面・健康面で継続的な支援が必要と判断した患者を、本人同意のもと市の保健師・コミュニティナース（リンクワーカー）へ紹介し、リンクワーカーが状況確認や保健指導、制度・地域資源の活用などの継続支援を行うものである。
対象者	孤立等社会生活面に課題を抱える市民

実施期間	令和４年度～継続
実施規模	市内 14 医療機関中8医療機関から依頼（令和４年度、令和５年度 10 件、令和６年 10 件）
アウトプット	・事業の趣旨説明と協力依頼を行い、相談依頼シートを設置している医療機関数
2） リンクワーカー（ヘルスコネクター）研修の開催	
活動内容	市内の医療・介護・福祉の専門職を対象に、社会的処方の考え方やリンクワーカーの役割を理解し、現場で活かせる支援技術を習得してもらうことを目的として実施している。制度にとらわれない柔軟な視点や、地域資源を活用した課題解決の方法を学ぶことで、専門職同士の共通理解と連携強化、顔の見える関係づくりにも寄与している。 研修は毎回テーマを変え、講義とグループワークを組み合わせた実践的な内容で構成されている。令和 4～6 年度の主なテーマには、社会的処方の基礎、地域資源の活用、好事例の共有、ポジティヴヘルス、事例検討、クモの巣チャート活用などがある。
対象者	市内の医療・介護・福祉専門職
実施期間	令和４年度～継続
実施規模（参考）	各年度 2～3 回シリーズで実施 ・令和４年度：3 回（延べ 126 名、総勢 71 名） ・令和５年度：2 回（延べ 83 名、総勢 54 名） ・令和６年度：3 回（延べ 120 名、総勢 63 名）
アウトプット	・研修の開催数、参加を依頼した事業所数
3） 「ポジティヴヘルス」の普及啓発	
	支援者が「ポジティヴヘルス」の考え方や対話技術を学び、相談支援の質を高めることを目的として実施している。講師による講義と演習を通じて、生活上の課題だけでなく“本人のエネルギー（強み・やりたいこと・価値観）”に注目するアプローチを学び、クモの巣チャートを活用した対話の実践を促進するものである。多職種が参加することで、共通言語を持った連携の強化にもつながり、支援現場でのポジティヴヘルスの実装を後押ししている。
対象者	全市民
実施期間	令和６年度～継続
実施規模	市内全域
アウトプット	ポジティヴヘルスに関する普及研修会の開催数
4） 本人の特性やニーズに応じた参加支援事業 （※一般社団法人 猫の手くらぶに委託）	
活動内容	個々の住民の興味・価値観・生活状況に応じた地域活動への参加を支援し、社会的孤立の解消や新たな役割・生きがいの創出を目指している。リンクワーカー（市の保健師・コミュニティナース等）が本人の特性や楽しみを丁寧にアセスメントし、多様な地域資源とのマッチングを行う。つなぎ先には、農業や文化・芸術活動、健康教室、高齢者サロン、趣味・スポーツ、公民館講座、ボランティア活動など、既存制度にとらわれない幅広い地域資源（隙間サービスを含む）を活用する。また、マッチング後も継続的にフォローアップを行い、参加の継続や定着を支援する。

対象者	全市民
実施期間	令和 5 年度～継続
実施規模	市内全域
アウトプット	・参加支援を中心に据えて活動する支援事業者数
5） コミュニティコーピングの開催（市民向けリンクワーカー研修）	
活動内容	市民が社会的孤立を自分事として捉え、地域での「つなぎ手」としての意識を育むことを目的として、協力型ゲーム「コミュニティコーピング」を活用した出前講座を実施している。参加者は、ゲームを通じて孤立に関する社会課題を体験的に学び、地域のつながりの大切さを理解するとともに、身近な支援者（コミュニティコネクター）となる第一歩を踏み出す機会となっている。養父市内外の議会、行政、大学、ボランティア団体など、多様な団体に広く実施されている。
対象者	全市民
実施期間	令和 6 年度～継続
実施規模	市内外の複数団体で実施
アウトプット	認定ファシリテーターによる開催数
6） コミュニティナースによるゆるやかなつながりの活動	
活動内容	コミュニティナースが地域に密着した日常的な活動を通じて、住民の身近な相談役となり、ゆるやかな見守りや関係づくりを進めている。コミュニティナースは、地域での雑談・交流・相談を入口に、市民の力を引き出し、地域の活力や可能性を育む役割を担う。社協の配食サービスやサロン活動、市民ドック、自治協議会の行事など、多様な場面に参加し、生活に寄り添う支援やつながりづくりを継続している。
対象者	全市民
実施主体	社会的処方推進課、地域おこし協力隊
実施期間	令和 5 年度～継続
アウトプット	コミュニティナースが地域で活動した日数、関わった住民数、地域づくりの支援に関わった案件数
7） 無理しない地域づくりの学校「KANAU カレッジ」（※合同会社 Roof に委託）	
活動内容	KANAU カレッジは、市民が持つ「やりたいこと」や地域への思いを、実際の活動へと形にすることを目指した市民主体の地域づくり講座である。外部講師による講義・ワークを通じて、想いやアイデアの整理、小さなアクションプランの作成までを支援し、受講生が自ら地域活動を創出できるよう後押しする。安心して語り合える環境づくりに重点を置き、参加者同士のつながりと相互支援も促進している。
対象者	全市民
実施期間	令和 6 年度～継続
実施規模	令和 6 年度：9 名参加 全 4 回、報告会 1 回を開催
アウトプット	実施回数、応募者獲得のための個別アプローチをした回数

8） 自治協議会・活動団体との対話・地域イベントへの参加によるコミュニティ支援 （※合同会社 Roof に委託）	
活動内容	自治協議会や市民活動団体、地域の活動者との対話・協働を通じて、地域資源の連携を促進し、地域活動を支えるコーディネーターの役割を果たしている。社会的処方の取り組みや地域でのつながりの重要性を周知しながら、居場所づくりやテーマ型活動の立ち上げを支援する。また、コミュニティナースと連携し、地域に寄り添った草の根的なコミュニティ支援を展開している。
対象者	全市民
実施規模	令和 6 年度：80 日/年、令和 5 年度：55 日/年の活動
アウトプット	関わった団体数、活動実施日数
9） 社会的処方ポータルサイト「つながる DAYYABU」の運営と充実	
活動内容	市内で開催されている「つどいの場」や地域活動の情報を一元化し、住民や支援者がアクセスしやすい情報基盤を整備している。ポータルサイト「つながる DAYYABU」では、地域の集いの場やイベント、活動団体などの情報を集約し、住民が「つながる先」や支援者が「つなげる先」を見つけやすくする “地域資源の見える化” を実現している。コミュニティナースによる活動紹介「つながるレポート」や、社会的処方・ポジティヴヘルスに関する解説記事、クモの巣チャートの体験利用機能も掲載し、市民が楽しみながら参加しやすい環境づくりに寄与している。
対象者	全市民
実施期間	令和 6 年度～継続
実施規模	2024 年 8 月 1 日時点で 175 の地域活動が登録
アウトプット	・登録団体への確認と新規獲得のための活動実施回数 ・レポート掲載数
10） 社会的処方の考えの普及・啓発	
活動内容	市民一人ひとりが「社会的処方」の考えを理解し、身近な地域資源や活動につながる・つなげることで、孤立の予防や心身の健康増進につながることを目指す。具体的には、出前講座や市民ドッグ等の市民向けイベント開催時に、社会的処方の概念や具体的な事例を紹介する普及啓発イベントを開催する。また、市民向け啓発リーフレットを配布し、社会的処方の意義や実際の活用例を分かりやすく発信することで広報・情報発信を行う。
対象者	全市民
実施期間	令和5年度～継続
実施規模	市内全域
アウトプット	・広報（ホームページ）掲載数

⑸ 健康影響予測評価の種類

本評価は、迅速（Rapid）評価を採用した。迅速評価とは、比較的短期間で、既存・定性データを活用して評価と改善策の作成を行う手法である。本 HIA は、厳密な因果効果の検証は行わず、2025 年 8～12

月の短期間で事業改善に資する方向性を検討した。

⑹ 実施の流れとスケジュール

HIAの標準的なステップ（①スクリーニング②スコーピング（仕様決定）③アプレイザル（評価）④レコメンデーション（推奨）⑤報告）に沿って実施する。

① スクリーニング ： 8月

・事業が健康に影響を与えるかを予備的に評価して、HIA 実施の要否を検討

・健康影響項目とその方向性（良い影響・悪い影響）を整理

② スコーピング（仕様決定）：8月～9月

・評価範囲（評価項目・領域・参加する関係者）と評価方法を整理

・参加者と共同で評価計画を策定する。（ワークショップ①）

・主に決定する事項：

・詳細に評価する影響項目 ・評価の方法（ヒアリング、利用するデータ等）

・実施スケジュール ・実施する担当者と役割決定

・考慮するポイント：

・影響の大きさ、重大性 ・利害関係者らの関心の程度 ・費用、時間、人的パワー

・スケジュール ・実施可能性（データの入手可能性、エビデンスの有無等）

・意思決定への影響の程度

③ アプレイザル（評価）：9月～11月

・ワークショップ、インタビューの実施と、支援記録と既存統計データの整理を通じて、

⑴ 対象者の特徴と市内規模感の整理 （ワークショップ①、支援記録と既存統計データの整理）

⑵ 健康やSDHへの影響の検討（ワークショップ②、インタビュー調査、支援記録の整理）

⑷ 課題や強化すべき機能の検討（ワークショップ①）

⑸ ロジックモデル（ワークショップ③）

④ レコメンデーション（推奨）：12月

・良い影響を最大化し、悪い影響を最小化するための改善策を検討する（ワークショップ③）

⑤ 報告：12月以降

・結果、改善提案の内容をまとめて報告書を作成。

・報告会を開催し結果を共有する

⑥ モニタリング・評価：次年度以降

・HIA プロセスの振り返り

・次年度以降の取組の計画に反映

・取組の実施状況の確認及び効果評価

⑺ 参画した関係者のメンバーと主な役割

① 実施主体

本評価の実施主体である、社会的処方推進課の主な役割は、全体の企画・設計、関係者調整、スケ

ジュール管理、調査実施・分析、調査結果の確認と内容の解釈、改善策の検討とまとめ、報告書を作成することである。適宜会議を開催しながら、進捗管理・課題共有を実施した。必要に応じて追加の打合せを行い、本評価の実施状況を把握しながら進めた。

所属機関・役職	役割
養父市社会的処方推進課 職員	HIA 運営・実施担当者
養父市社会的処方推進課 課長	HIA 運営・実施責任者
養父市社会的処方推進課 地域包括支援センター長・保健師	HIA 運営・実施責任者
合同会社 Roof	ワークショップ進行・調整
合同会社 Roof	ワークショップ進行・調整

② 外部協力者

公益財団法人医療文化経済グローカル研究所医療医学部門社会的処方研究室の社会的処方の専門家及びHIAの専門家を外部協力者として企画・運営に関する専門的な助言をいただいた。

所属機関・役職	役割
公益財団法人医療文化経済グローカル研究所医療医学部門社会的処方研究室/京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 社会疫学分野 教授	外部アドバイザー
産業医科大学 環境疫学分野 教授	外部アドバイザー
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 社会疫学分野 助教	外部アドバイザー
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 社会疫学分野 助教	外部アドバイザー

③ 共同実施者

本事業によって影響を受ける可能性のある多様な主体を、主要な利害関係者として特定し、本評価への参画を依頼する。包含基準は、以下の3つの条件のいずれかに該当する者とする。

1） 本事業において、企画・実施・連携のいずれかに関与している者
2） 地域の実情や当事者の声を知り、かつ本事業に対して一定の見解を有する者
3） 本事業の今後の展開に中心的に関与する可能性が高い者

実施主体は、共同実施者の本評価プロセスへの参加、継続的な情報共有、意見反映の機会を確保する。

	所属機関・役職
1. 関連部署 （庁内連携：保健・困窮・障がい・母子・教育）	養父市健康福祉部 部長
	養父市健康福祉部社会福祉課 課長
	養父市健康福祉部社会福祉課 主幹

	養父市健康福祉部健康医療課 課長
	養父市健康福祉部健康医療課 主幹
	養父市健康福祉部介護保険課 課長
	養父市こども・夢・えがお部子育て応援課 課長
	養父市こども・夢・えがお部子育て応援課 副課長
	養父市教育部 次長兼こども学び課 課長
	養父市教育部 学校教育担当課長
	養父市社会的処方推進課 地域包括支援センター
	養父市社会的処方推進課 副主幹
	養父市社会的処方推進課 コミュニティナース
2. 外部連携機関	大屋診療所 所長
	大屋診療所
	社会福祉法人養父市社会福祉協議会地域福祉課長
	社会福祉法人養父市社会福祉協議会介護福祉課長
	一般社団法人猫の手くらぶ 代表
	NPO 法人がっせえアート 代表
	NPO 法人がっせえアート 副代表
	NPO 法人リトルメイト 代表
	一般社団法人晴樹会 代表
	一般社団法人晴樹会 副代表
	養父市地域おこし協力隊 コミュニティナース

⑻ 評価項目とデータ収集方法

スクリーニングの結果を踏まえ、本評価で重点的に評価する 20 項目を選定した。

表4 重点的に評価する項目

項目	レベル	影響領域	影響項目
1	個人	身体	本人の身体活動
2		心理	本人の孤独感
3			本人の不安感
4			本人の自己効力感
5		精神・エンパワーメント	本人の楽しさ・充実感
6			本人の生きがい
7		生活習慣・行動	本人の自己管理能力*1
8		社会とのつながり	本人の他者とのつながり・交流
9			本人の地域活動への参加
10		経済	本人の仕事・就労機会
11	家族	心理	家族の安心感・心の余裕
12	コミュニティ	住民同士のつながり	地域住民の支え合いの
13			地域住民のつながり・
14		住民主体の活動	地域活動や居場所の充実
15			地域活動の担い手の数
16		労働環境	地域の雇用・仕事の担い手の数
17	システム	サービスの利便性	サービスの適正利用*2
18		協働体制	多職種・多機関連携
19		支援者の負担	支援者（専門職）の業務負担感
20		既存制度との関係	既存制度・サービスとの関係性*3

*1「自己管理能力」:主体的に自分の健康や生活を維持・改善できる力が高まる/低下すること
*2「サービスの適正利用」:過不足のない利用が受けやすくなる/受けにくくなること
*3「既存制度・サービスとの関係性」:既存制度・サービスと補い合う/重複・競合すること

⑼ データ収集方法

① ワークショップ

本市の社会的処方の取組の対象者の特徴及び予測される影響について、幅広い関係者の認識を予測するため、ワークショップを計3回実施する。対象者は、「⑺③共同実施者」であり、リクルートは、養父市社会的処方推進課を通じて行い、目的・趣旨を文書と口頭で説明を行った上で参加同意を得る。

第1回目では、社会的処方のプロセスにつながる対象者の特徴と、社会的処方の取組実施上の課題と強化すべき機能の把握を目的とし、少人数のテーブルごろのグループワークを行う。付箋及び模造紙を用いて意見出しを行い、定性データ（模造紙、付箋、発言内容、観察メモ等）を収集する。

第2回目では、本市の社会的処方の取組がもたらす影響に関する支援者側の認識の把握を目的とし、重点的に評価する20項目について、1）質問票による個人回答（5件法：良い影響～やや良い影響～なし～やや悪い影響～悪い影響）を得て、その後グループでの意見交換を挟み、2）模造紙・カードを用いたグループワークを行う。グループワークでは、質問票と同様の軸を描いた模造紙の上に、20項目のカードを配置することで、グループでの各項目に対する影響の方向性と大きさに関する合意形成を行う。

第3回目では、第1回・2回で得られた意見と、その他収集したデータの分析結果をすべて共有し解釈の内容確認を行う。そして、本市の社会的処方の取組をより良くするための方向性について検討をする。

② インタビュー

本市の社会的処方の取組の実践事例を収集し、介入内容、及び観察された変化に関する情報を収集するため、「⑺③共同実施者」の中から協力を得られた関係者にインタビューを実施する。リクルートは養父市社会的処方推進課を通じて行い、目的・趣旨、守秘義務、データの取扱い等を文書および口頭で説明し、同意を得た上で対面形式で実施する。事例は、1）紹介・発見の場があること2）リンクワーカーの役割を担う支援者による関わりがあること3）地域資源への紹介・接続があることをすべて満たすものとする。インタビューは、事前に作成した質問項目に沿って行い同意を得て録音する。質問の順序は自然な対話の流れを優先し、必要に応じて変更する。主な収集項目は、対象者の基本属性、抱える課題・ニーズ、支援者の関わり内容、関与した職種・機関、主なつなぎ先、観察された成果・変化等とする。

	項目	質問内容
基本事項	1. 年齢　2. 性別 3. 家族構成　4. 生活歴 5. 既往歴	・ご本人の基本的なプロフィールとして、年齢、性別、家族構成、生活歴、既往歴を可能な範囲で教えてください。
抱えていた課題・困り事	1. つながってきた経緯 2. 抱えていた主な課題・困り事	・どのようなきっかけで相談や支援につながりましたか？ ・相談や支援につながる前に、どのような困り事や悩みを抱えておられましたか？
支援の内容	1. 対象者への支援内容 2. 多職種・多機関との連携・調整の内容	・ご本人に対して、支援を実施されましたか？具体的に、支援内容や関わりの内容について教えてください。

	3. 支援を実施する上で意識した内容や工夫した点	・関係機関とはどのような関わりを行いましたか？ ・支援を行う上で、意識した内容や工夫した点を教えてください。
つなぎ先・活動	1. 紹介や参加につながった活動・サービスの有無 2. 紹介や参加につながった活動・サービスの内容	・支援を行う中で、地域の活動や制度・サービスにつなぎましたか？具体的に、どのような活動や制度・サービスにつないだか教えてください。
支援後の変化・具体的な成果の実感	1. 支援による対象者個人の変化に対する認識 2. 支援による対象者個人を取り巻く環境の変化に対する認識	・支援を行うことで、ご本人に変化を感じましたか？具体的に、どのような変化がありましたか？ ・支援を行うことで、ご本人を取り巻く環境（家族、地域コミュニティ・住民、支援者側）に変化や影響を感じましたか？具体的に、どのような変化がありましたか？
今後の支援の方針	・今後の支援や関わりの方針	・今後も継続して関わりを行いますか？ 具体的にどのような関わりを行う予定ですか？

③ 既存文書調査

本市の社会的処方の取組の実践事例を収集し、介入内容、及び観察された変化に関する情報を収集するため、令和4～6年度にかけて養父市社会的処方推進課が関与した計35件の事例記録資料を収集する。対象資料は、以下の表の通りである。記録資料の記述内容から、インタビュー項目と同様に、対象者の基本属性から観察された変化に至るまでの記述を意味単位ごとに抽出する。記録内容のみから、支援経過や本人の変化を十分に把握できない場合は、当該事例に関与した職員や支援者に対して補足ヒアリングを実施することで情報の補完を行う。

・つながり処方箋（R4～7）「R4 事例対応一覧」「R5 事例対応一覧」「R6 事例対応一覧」 ・つながり処方箋（R4～7）「台帳_令和 5 年度支援状況」「台帳_令和 6 年度支援状況」 ・つながり処方箋（R4～7）「支援状況連絡シート」 ・つながり処方箋（R4～7）「支援状況シート別紙」 ・つながり処方箋（R4～7） 訪問記録、支援経過、サマリー

④ 既存統計資料の整理

本市の社会的処方の取組の対象者層（高齢者、生活困窮者、障がいのある人、子ども・若者等）の市内の規模感を把握するため、既存の統計資料を整理する。参照する統計資料は以下の表のとおりである。

・「住民基本台帳 地区別高齢化状況調査表（令和 7 年度 9 月末時点）」

・「健康やぶ 21 第 4 版（令和 2 年度養父市健康づくりアンケート調査結果）」
・「要介護認定データベース（令和7年度10月時点）」
・「個人住民税データベース（令和5年度12月1日）」
・こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」（令和 4 年度）

⑤ 分析方法

ワークショップ（第 1 回目）、半構造化インタビュー、および既存文書調査を通じて収集された定性データ（模造紙の写し、観察メモ、議事録、逐語録、補足ヒアリングのメモなど）は、質的解析ソフトウェアであるMAXQDA を使用し、次の手順で分析する。まず、収集された資料全体を読み込み、データの内容と文脈を理解する。定性データから、記述内容の核となる概念や情報を意味単位ごとに抽出し、初期コーディングが実施を実施する。初期コーディングの結果に基づき、関連性の高いコードを統合してカテゴリを抽出する。その後、カテゴリ間の関連性や傾向を探求し、議論の焦点となるテーマを作成する。抽出されたテーマは、分析結果の妥当性を高めるため、実施主体の会議と第3回ワークショップで確認を行う。

第 2 回目ワークショップで質問票を用いて収集された個人評価の結果は、質問票の回答である 5 件法を、「良い影響」を+2、「やや良い影響」を+1、「変わらない」を0、「やや悪い影響」を-1、「悪い影響」を-2 に数値化する。そのデータに基づき、各影響項目について平均値と標準偏差、各選択肢の回答分布を算出する。第 2 回ワークショップでグループワークの検討結果を数値化するために、影響方向を示す軸上で矢印の先端を±2、中心点を 0、その中間点を±1 とし、各グループの模造紙上のカード位置を小数点第 2 位まで読み取り、影響項目ごとに平均値および標準偏差を算出する。

⑥ 結果の統合と解釈の方法

収集したデータは、実施主体と共同実施者に共有する。まず、実施主体において、収集したデータについて議論し、本市の社会的処方の取組がもたらす影響について、以下の基準と判断根拠をもって整理する。これらの一連の検討の過程と結果は、第3回目ワークショップにおいて共同実施者にも共有し合意形成を行うことで最終的な結果として扱う。

種類	記号	定義	判断根拠
1.影響の方向性			
良い影響	P	健康状態を改善すると考えられる、または改善の機会をもたらす影響	個人・グループ回答の平均値が正方向・ポジティブな変化が見られた事例
悪い影響	N	健康状態を低下させると考えられる影響	上記の結果が負方向・ネガティブな変化が見られた
2.影響の大きさ			
小さい	△	ごくわずかで、無視できる程度の影響	個人とグループいずれかの回答結果の絶対値が0.5未満かつ事例で確認されない
中程度	○	平均的な強度・質・程度の影響	個人とグループいずれかの回答結果の絶対値が0.5以上または事例1～4件
大きい	◎	質的にも量的にも大きく、注目・対応が必要とされる重要な影響	個人とグループ両方の回答結果の絶対値が1以上または事例5件以上
3.根拠の確からしさ			
分からない	不明	発生の可能性はあるが、裏付けが不十分	個人とグループ両方の回答結果のばらつきが大きい（標準偏差0.5以上）または事例なし
やや確か	やや確か	一部データから裏付けがある	個人とグループどちらか一方の回答結果のばらつきが小さい（標準偏差0.5未満）かつ事例1～9件
確か	確か	複数データが整合し裏付けがある	個人とグループの両方の回答結果の方向性が一致かつ両方の標準偏差が0.5未満かつ事例10件以上

⑦ 倫理的配慮

共同実施者に対して評価の目的と趣旨を文書および口頭で詳細に説明し同意を得た上で実施する。また、ワークショップ、インタビュー、および文書調査を通じて得られた全ての情報は、個人が特定されないよう匿名化を徹底する。

⑼ 改善案の作成方法

実施主体による会議と、第3回目ワークショップにおいて、良い影響を伸ばし、悪い影響を軽減するための方向性について検討する。良い影響を伸ばすための方向性は、第1回目ワークショップで検討した、課題・強化すべき機能に基づき作成する。さらに、悪い影響を減らすための方向性は、第3回ワークショップで、悪い影響の原因に関する意見出しを行い、それに基づき改善案を作成する。

⑽ 報告の方法

実施主体が、一連の過程と結果を最終報告書にまとめる。また、市内の関係者に結果を広く共有する場を設けて結果を共有する。

⑾ ロジックモデル

影響に関する検討結果を踏まえて、本市の社会的処方の取組に関するロジックモデルを作成する。まず、実施主体が3回の会議でロジックモデルを作成する。そして、第3回ワークショップで共有し、ワークショップ終了後1週間以内までに意見をもらえるようにする。これらの意見を踏まえて、最終的なロジックモデルを作成する。

⑿ 最終成果物

HIA 報告書（健康影響予測評価結果、ロジックモデル、改善案）

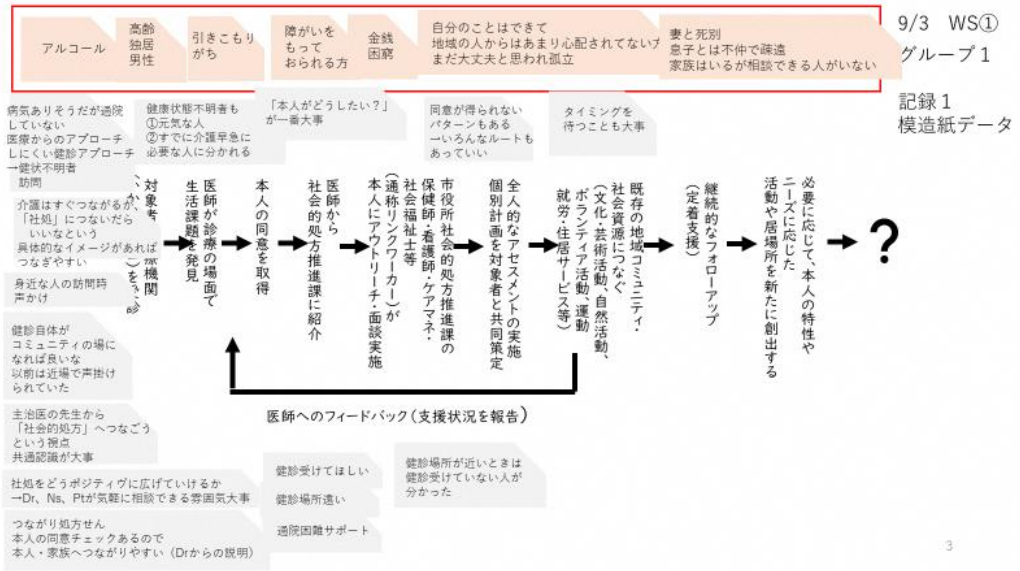
C．ワークショップ

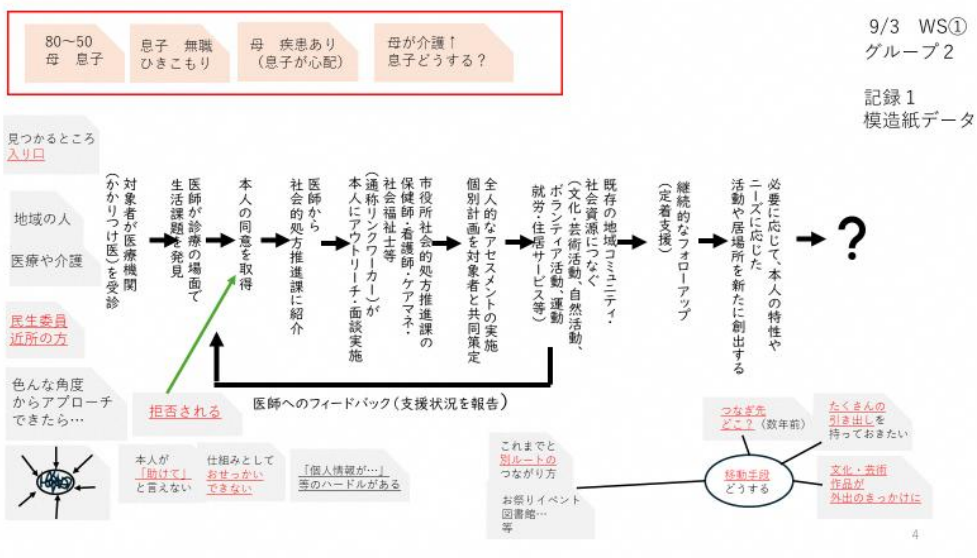
(1) 第１回目ワークショップ　結果まとめ

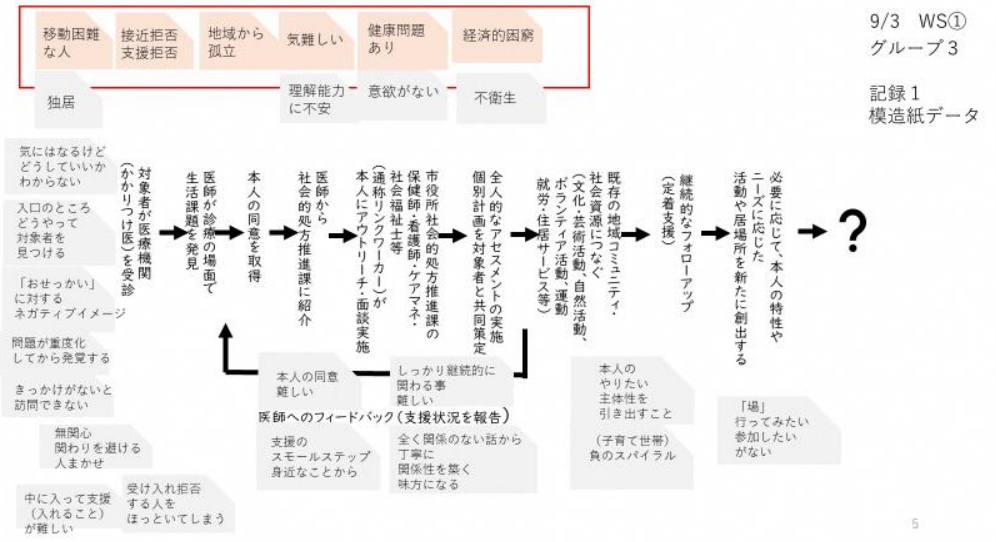
① 実施概要

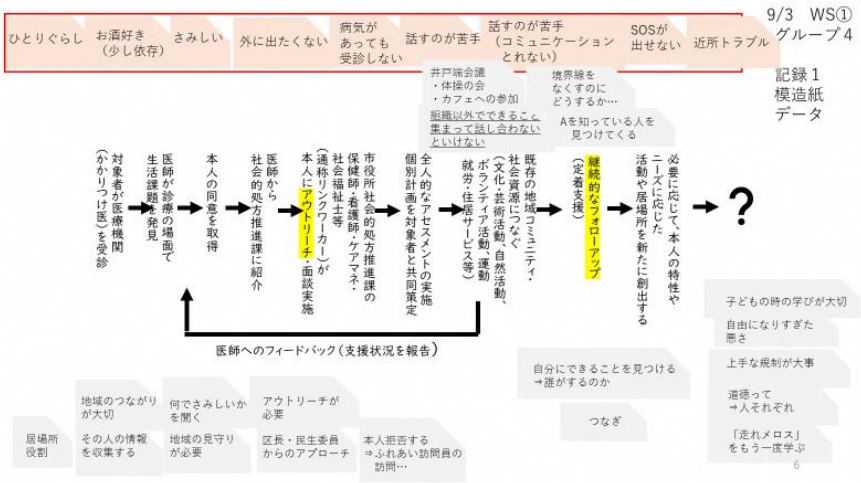
日時	2025 年 9 月 3 日（水）15:30～17:00
場所	老人福祉センター ２階 集会室
参加者	庁内関連部局、外部連携機関、コミュニティナース、社会的処方事業推進キーパーソン主にケア・対人支援に関わる関係者計22名が参加。
プログラム概要	1） 開会あいさつ・趣旨説明 2） 健康影響予測評価の概要と進め方について 3） 本市における社会的処方の取組紹介 4） グループワーク
グループワークの内容	目的は、医療機関を起点とする社会的処方の仕組みに関して、対象者像の整理と介入プロセス上の課題を共有し、関係者間の共通理解を形成することであった。 方法は、少人数のテーブルに分かれたグループワーク形式で、付箋・模造紙を用いたアイデア出しを実施した。主な議題は、対象者像の特徴整理、介入プロセス上の課題点の整理を行った。
主な成果物	・グループワークの模造紙の写し

② グループワークの模造紙の写し




9/3 WS①
グループ2
記録1
模造紙データ
80～50
母 息子
息子 無職
ひきこもり
母 疾患あり
（息子が心配）
母が介護↑
息子どうする？
見つかるところ
入り口
地域の人
医療や介護
民生委員
近所の方
色んな角度
からアプローチ
できたら…
対象者が医療機関（かかりつけ医）を受診
医師が診療の場面で生活課題を発見
本人の同意を取得
医師から社会的処方推進課に紹介
市役所社会的処方推進課の保健師・看護師・ケアマネ・社会福祉士等（通称リンクワーカー）が本人にアウトリーチ・面談実施
全人的なアセスメントの実施
個別計画を対象者と共同策定
既存の地域コミュニティ・社会資源につなぐ（文化・芸術活動、自然活動、ボランティア活動、運動就労・住居サービス等）
継続的なフォローアップ（定着支援）
必要に応じて、本人の特性やニーズに応じた活動や居場所を新たに創出する
？
拒否される
医師へのフィードバック（支援状況を報告）
本人が「助けて」と言えない
仕組みとしておせっかいできない
「個人情報が…」等のハードルがある
これまでと別ルートのつながり方
お祭りイベント
図書館…等
つなぎ先どこ？（数年前）
たくさんの引き出しを持っておきたい
移動手段どうする
文化・芸術作品が外出のきっかけに
4


9/3 WS①
グループ3
記録1
模造紙データ
移動困難な人
接近拒否
支援拒否
地域から孤立
気難しい
健康問題あり
経済的困窮
独居
理解能力に不安
意欲がない
不衛生
気にはなるけど
どうしていいか
わからない
入口のところ
どうやって
対象者を
見つける
「おせっかい」
に対する
ネガティブイメージ
問題が重度化
してから発覚する
きっかけがないと
訪問できない
無関心
関わりを避ける
人まかせ
中に入って支援
（入れること）
が難しい
受け入れ拒否
する人を
ほっといてしまう
対象者が医療機関（かかりつけ医）を受診
医師が診療の場面で生活課題を発見
本人の同意を取得
医師から社会的処方推進課に紹介
市役所社会的処方推進課の保健師・看護師・ケアマネ・社会福祉士等（通称リンクワーカー）が本人にアウトリーチ・面談実施
全人的なアセスメントの実施
個別計画を対象者と共同策定
既存の地域コミュニティ・社会資源につなぐ（文化・芸術活動、自然活動、ボランティア活動、運動就労・住居サービス等）
継続的なフォローアップ（定着支援）
必要に応じて、本人の特性やニーズに応じた活動や居場所を新たに創出する
？
本人の同意
難しい
しっかり継続的に
関わる事
難しい
医師へのフィードバック（支援状況を報告）
支援の
スモールステップ
身近なことから
全く関係のない話から
丁寧に
関係性を築く
味方になる
本人の
やりたい
主体性を
引き出すこと
（子育て世帯）
負のスパイラル
「場」
行ってみたい
参加したい
がない
5


9/3 WS①
グループ4
記録1
模造紙
データ
ひとりぐらし
お酒好き
（少し依存）
さみしい
外に出たくない
病気が
あっても
受診しない
話すのが苦手
話すのが苦手
（コミュニケーション
とれない）
SOSが
出せない
近所トラブル
井戸端会議
・体操の会
・カフェへの参加
組織以外でできるこん
集まって話し合わない
といけない
境界線を
なくすのに
どうするか…
Aを知っている人を
見つけてくる
対象者が医療機関（かかりつけ医）を受診
医師が診療の場面で生活課題を発見
本人の同意を取得
医師から社会的処方推進課に紹介
市役所社会的処方推進課の保健師・看護師・ケアマネ・社会福祉士等（通称リンクワーカー）が本人にアウトリーチ・面談実施
全人的なアセスメントの実施
個別計画を対象者と共同策定
既存の地域コミュニティ・社会資源につなぐ（文化・芸術活動、自然活動、ボランティア活動、運動就労・住居サービス等）
継続的なフォローアップ（定着支援）
必要に応じて、本人の特性やニーズに応じた活動や居場所を新たに創出する
？
医師へのフィードバック（支援状況を報告）
自分にできることを見つける
→誰がするのか
つなぎ
子どもの時の学びが大切
自由になりすぎた
悪さ
上手な規制が大事
道徳って
→人それぞれ
「走れメロス」
をもう一度学ぶ
地域のつながり
が大切
何でさみしいか
を聞く
アウトリーチが
必要
居場所
役割
その人の情報
を収集する
地域の見守り
が必要
区長・民生委員
からのアプローチ
本人拒否する
⇒ふれあい訪問員の
訪問…
6

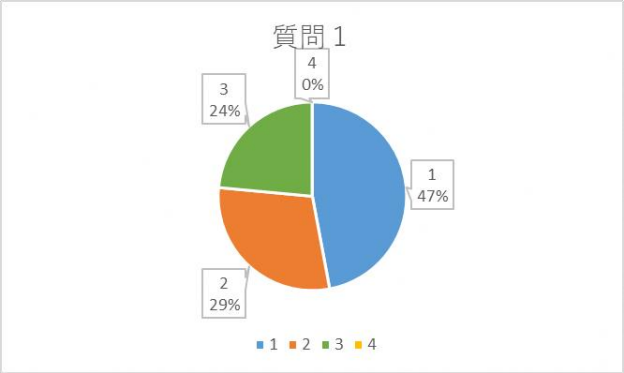
③ 当日の写真

④ 事後アンケート結果

参加者 22 名（回答者数 17 名）

質問1） 本日の話題提供「養父市の社会的処方の取組」について理解が深まりましたか

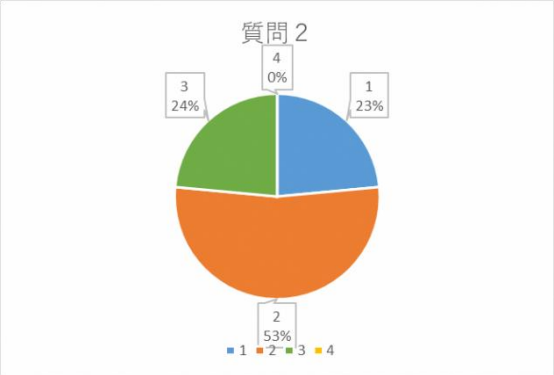
1.非常に深まった 2.少し深まった 3.どちらとも言えない 4.あまり深まらなかった 5.全く深まらなかった



・さまざまな角度から、いろいろ手法を用いて「社会的処方」の取り組みを総合的に進めていることが分かったまだまだ課題が多いので少しに〇を付けました
・つながるがキーワードになったワークショップでした
・事例の報告があって具体的な成果のイメージがうかんだ
・あらためて取組をふりかえるいい機会になりました。ありがとうございました。
・あらためていろんな事をしている事が分かりました
・たくさんあるんだなあと
・事例も、処方の流れも、医療からはじまりでの情報提供なので、そうではない社会的処方の事例への話もあれば、参加支援、地域づくりをしている機関・団体ももっと理解が深まるのではないかと感じた
・市の取組を聞けてよかったです
・別の視点からの話が参考になりました
・医療機関からの情報提供件数が事例と知ることができた

質問2） 本日のワークショップを通じて、今後の評価の流れについて理解が深まりましたか

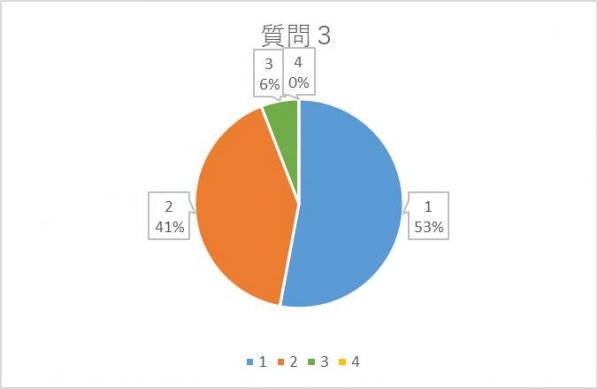
1.非常に深まった 2.少し深まった 3.どちらとも言えない 4.あまり深まらなかった 5.全く深まらなかった



・この評価というのはとても難しいと思います。エビデンスを出す事に悩んでいます。だからこそ、すごい取り組み、チャレンジだと思います。地域福祉の評価軸をつくる事にもつながると思います。
・話が進んでいく中で流れ全体のイメージがつきました
・自分たちが何をどう評価していくのかがよく分からなかった
・どんな形になるのか「A、B、C」とか？
・流れは分かった
・どう評価をまとめられるのか興味深いです
・評価についてもう一つ分かりませんでした。

質問3） 本日のグループワークはいかがでしたか

1. 大変有意義だった 2. 有意義だった 3. どちらとも言えない 4. あまり有意義でなかった 5. 有意義でなかった



・みなさんの課題感がよくわかる話だった。同じ悩みを持っている。どうにかしたいんだけど、という想いを感じた。
仮想事例を共有し色々な立場で自由に意見を話し合える楽しいグループワークでした。それぞれの専門性を再確認し理解し合えたと思います。
・ふだん顔を合わせない人とも会えた
・それぞれの立場で、率直な意見を出しあえてよかったです
・本人の同意を得る、ヘルプが言うのが難しい人がいるし、そういう人にどう社会的処方を届けるかが大切だと思いました。
・普段話ができない、きっかけがない方々にお会いできたのはよかった
・実際の社会的処方に関係した人ばかりではなかったので、イメージ合わせがあったが、チグハグ感があった。
・他部署の意見が聞けて良かったです。社会的孤立、支援に向けて誰もが意見を持って取り組んでいることがわかりました。
・様々な話が聞けて参考になりました
・他職種の意見を聞くことができた

質問4）その他自由記述

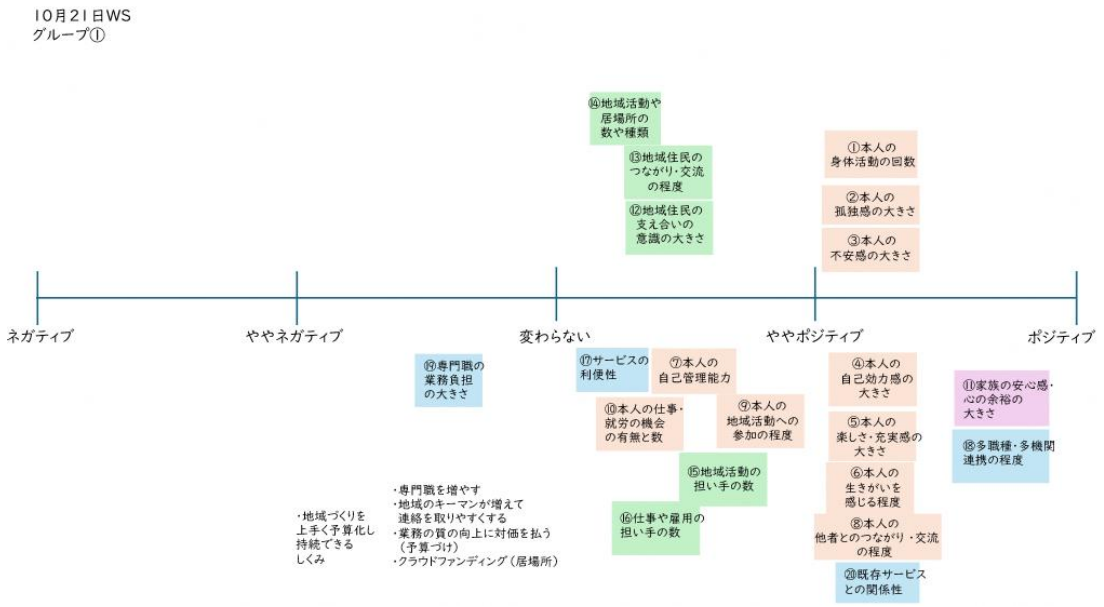
・お疲れ様でした。ありがとうございました。
・アイスブレイクもあったし良かったと思います
・これぐらいの時間がよいと思います。短すぎず、長すぎず、もう少し話したいと思える長さでした
・グループでなぜ養父市がこの社会的処方をしようとしたのかのもともとの理由を聞かれた方がいた。「今までやっている取り組みと変わらない」と言われてて、今までしてたことに何がプラスされたのがこの取り組みなのかが分かればよかったのかなと思った
・久しぶりのワークショップで楽しかったです。意見を交わすと自身の考えも今一度振り返ることができます

⑵ 第２回目ワークショップ 結果まとめ

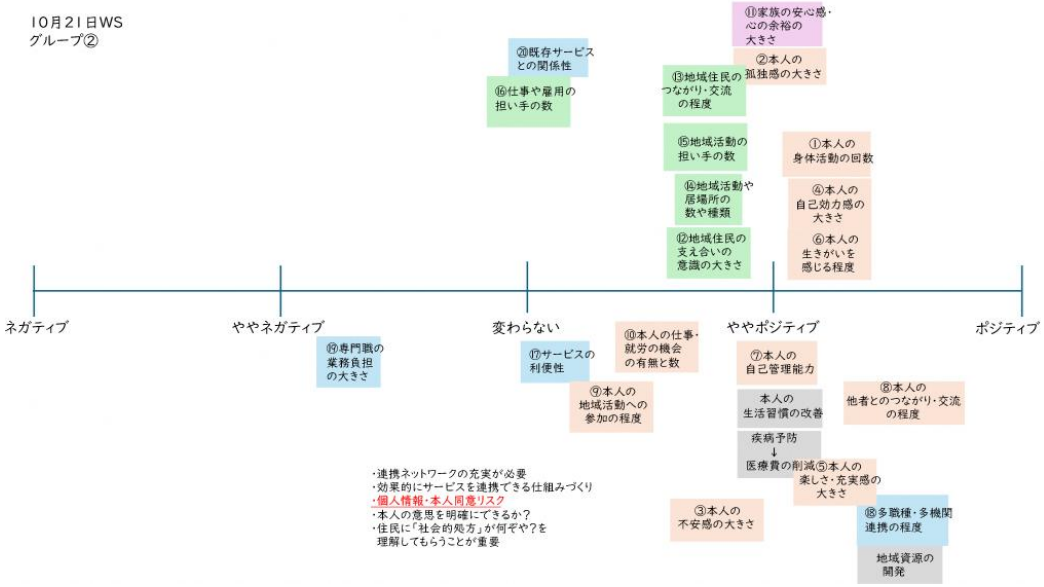
① 実施概要

日時	2025 年 10 月 21 日（火）15:30～17:00
場所	老人福祉センター ２階 集会室
参加者	庁内関連部局、外部連携機関、コミュニティナース、社会的処方事業推進キーパーソン主にケア・対人支援に関わる関係者計18名が参加。
プログラム概要	1） 開会あいさつ・趣旨説明 2） 第１回ワークショップの振り返り 3） これまでに医療機関から紹介を受けた事例の振り返り 4） 質問票を用いた個人評価の実施 5） 模造紙・カードを用いたグループ評価の実施 6） 市内の社会的処方に関連する事例紹介 7） グループでの改善策の検討
グループワークの内容	目的は、本市の社会的処方の取組を進めることで予測される、対象者本人とその家族地域コミュニティや住民、医療介護福祉サービス提供体制への多面的な影響を把握することだった。質問票を用いた個人評価と、模造紙・カードを用いたグループ評価を行い、関係者の認識を調査した。
主な成果物	質問票に対する個人回答の結果、グループワークの検討結果

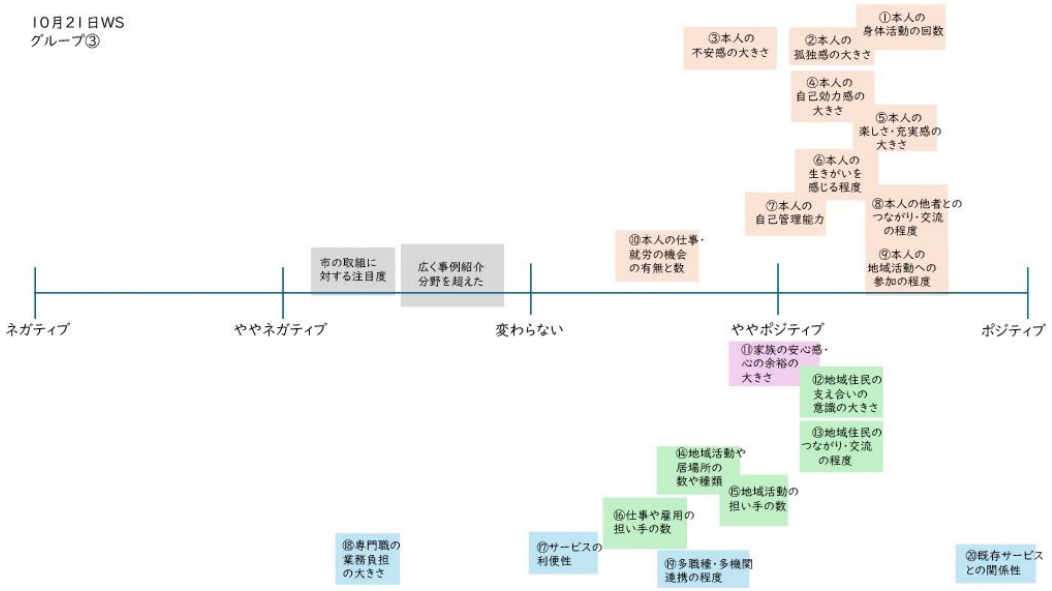
② グループワークの模造紙の写し



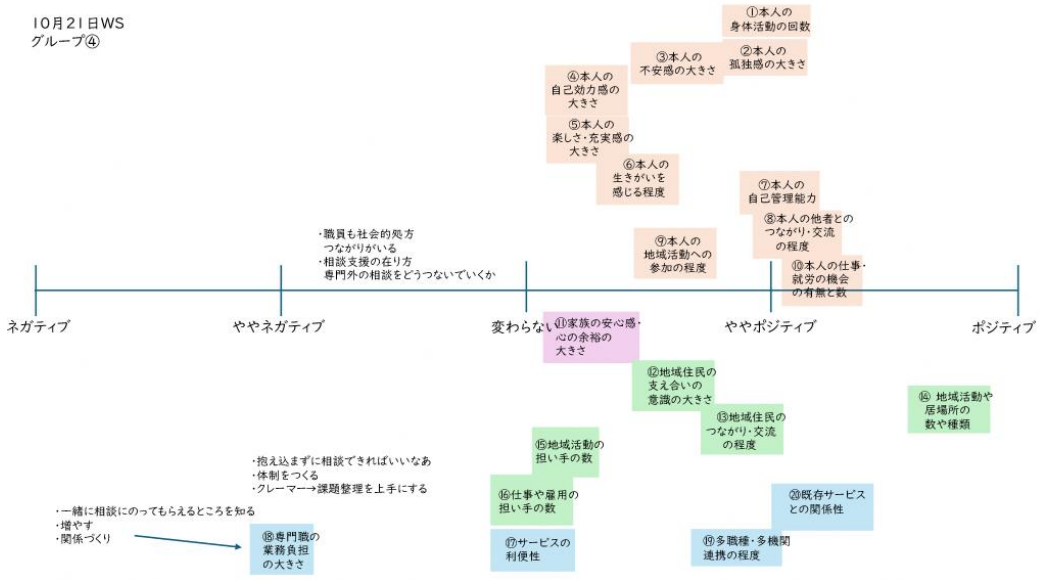
10月21日WS
グループ②



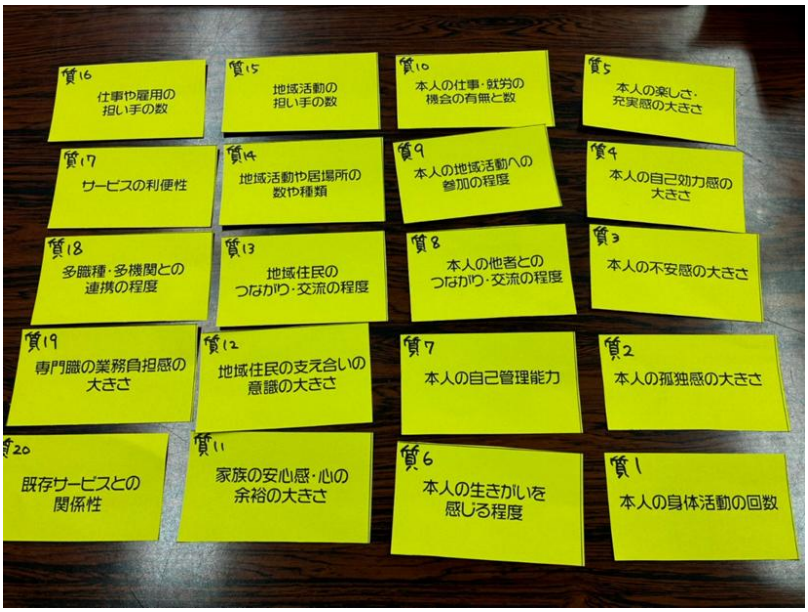
10月21日WS
グループ③



10月21日WS
グループ④



③ 当日の写真


質16 仕事や雇用の担い手の数
質15 地域活動の担い手の数
質10 本人の仕事・就労の機会の有無と数
質5 本人の楽しさ・充実感の大きさ
質17 サービスの利便性
質14 地域活動や居場所の数や種類
質9 本人の地域活動への参加の程度
質4 本人の自己効力感の大きさ
質18 多職種・多機関との連携の程度
質13 地域住民のつながり・交流の程度
質8 本人の他者とのつながり・交流の程度
質3 本人の不安感の大きさ
質19 専門職の業務負担感の大きさ
質12 地域住民の支え合いの意識の大きさ
質7 本人の自己管理能力
質2 本人の孤独感の大きさ
質20 既存サービスとの関係性
質11 家族の安心感・心の余裕の大きさ
質6 本人の生きがいを感じる程度
質1 本人の身体活動の回数

丸山 由紀
加来 期道

④ 質問票

本市の社会的処方の取組に対する健康影響予測評価

質問票

【目的】

本質問票は、本市の社会的処方の取組（医療機関と連携した相談支援・参加支援・地域づくりのプロセスと、それらを支える一連の事業や活動）が対象者個人とその家族、地域コミュニティ・住民、医療・介護・福祉サービス提供体制に与える影響を、多機関・多職種の視点から予測的に評価することを目的としています。

【ご記入にあたってのお願い】

・本冊子は 5 ページ、質問は 20 項目です。

・回答にかかる時間は約 5～10 分です。

・各質問について、「社会的処方の取組を進めることで、どのように変化すると考えますか？」という問いに対して、最も近い選択肢を〇で囲んでください。

・正解・不正解はありませんので、ご自身の主観で自由にお答えください。

・回答は、グループワークの前に個人で記入し、その後の話し合いの参考資料として使用します。

2025 年10 月21 日

氏名：

所属：

Ⅰ　対象者本人に対する影響

質問1　社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の身体活動の回数はどのように変化すると思いますか？

減る　　やや減る　　変わらない　　やや増える　　増える

質問2　社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の孤独感はどのように変化すると思いますか？

大きくなる　　やや大きくなる　　変わらない　　やや小さくなる　　小さくなる

質問3　社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の日常生活や将来に対する不安感はどのように変化すると思いますか？

大きくなる　　やや大きくなる　　変わらない　　やや小さくなる　　小さくなる

質問4　社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の自己効力感（自分への自信）はどのように変化すると思いますか？

低下する　　やや低下する　　変わらない　　やや高まる　　高まる

質問5　社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の楽しさや充実感はどのように変化すると思いますか？

低下する　　やや低下する　　変わらない　　やや高まる　　高まる

質問6　社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の生きがい（生きる価値や意味）を感じる程度はどのように変化すると思いますか？

低下する　　やや低下する　　変わらない　　やや高まる　　高まる

次のページに続きます

質問7 社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の自己管理能力（主体的に自分の健康や生活を維持・改善する力）はどのように変化すると思いますか？

低下する　　やや低下する　　変わらない　　やや高まる　　高まる

質問8 社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の他者とのつながりや交流の程度はどのように変化すると思いますか？

減る　　やや減る　　変わらない　　やや増える　　増える

質問9 社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の社会活動や地域活動への参加の程度はどのように変化すると思いますか？

減る　　やや減る　　変わらない　　やや増える　　増える

質問 10 社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の仕事や就労の機会はどのように変化すると思いますか？

減る　　やや減る　　変わらない　　やや増える　　増える

次のページに続きます

Ⅱ 対象者の家族への影響

質問 11 社会的処方の取組を進めることで、対象者本人の家族や介護者の心の持ちよう（安心感や心の余裕など）はどのように変化すると思いますか？

低下する　　やや低下する　　変わらない　　やや高まる　　高まる

Ⅲ 対象者を取り巻く地域コミュニティ・住民への影響

質問 12 社会的処方の取組を進めることで、地域の中の住民同士の支え合いの意識はどのように変化すると思いますか？

低下する　　やや低下する　　変わらない　　やや高まる　　高まる

質問13 社会的処方の取組を進めることで、地域の中の住民同士のつながりや交流の回数や頻度はどのように変化すると思いますか？

減る　　やや減る　　変わらない　　やや増える　　増える

質問14 社会的処方の取組を進めることで、市内の地域コミュニティや居場所の充実さ（数・選択肢の多様性）はどのように変化すると思いますか？

減る　　やや減る　　変わらない　　やや増える　　増える

質問15 社会的処方の取組を進めることで、社会活動や地域活動の担い手の数はどのように変化すると思いますか？

減る　　やや減る　　変わらない　　やや増える　　増える

次のページに続きます

質問16 社会的処方の取組を進めることで、市内で働く人や新たに仕事に就く人の数はどのように変化すると思いますか？

減る　　やや減る　　変わらない　　やや増える　　増える

Ⅳ 対象者を取り巻く市内の医療・介護・福祉サービス提供体制への影響

質問17 社会的処方の取組を進めることで、市内の医療・介護・福祉サービスの過不足のない利用や受けやすさはどのように変化すると思いますか？

受けにくくなる　　やや受けにくくなる　　変わらない　　やや受けやすくなる　　受けやすくなる

質問18 社会的処方の取組を進めることで、医療・介護・福祉・地域の多職種・多機関での情報共有・役割分担の円滑さはどのように変化すると思いますか？

低下する　　やや低下する　　変わらない　　やや高まる　　高まる

質問19 社会的処方の取組を進めることで、支援者（特に、専門職）の業務負担感はどのように変化すると思いますか？

高まる　　やや高まる　　変わらない　　やや低下する　　低下する

質問20 社会的処方の取組を進めることで、既存の医療・介護・福祉のサービスや制度との関係性はどのように変化すると思いますか？

※重複・競合する：既存の制度やサービスと競合し、役割や対象が分からなくなる。混乱が生じる

※補い合う：全体的にお互いの足りない部分を補完し合い、既存サービス・制度が強化される。

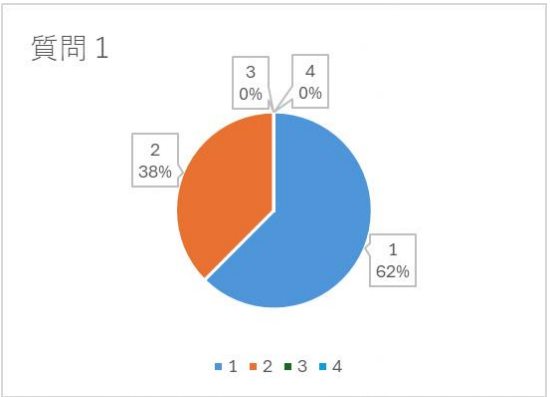
重複・競合する　　やや重複・競合する　　変わらない　　やや補い合う　　補い合う

⑤ 事後アンケート結果

参加者 18 名 回答者数 16 名（回答率 89%）

質問1） 質問票やグループワークでの評価を通して、本市の社会的処方の取組が対象者の健康や健康の社会的決定要因に与える多面的な影響を考えることができた

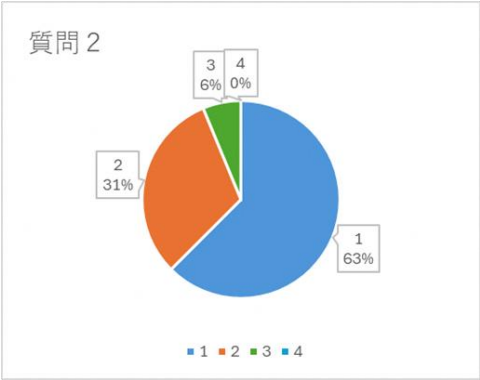
1.そう思う2.ややそう思う3.どちらとも言えない4.あまりそう思わない5.そう思わない



・ 個人に与える影響については「本人による」ことが多く、事例を聞いてから評価する方が分かりやすかった。けど、本人の孤独感や不安感への影響は本人に聞かないと評価できないのでは？
・ 自分の業務だけでなく、他職種の考えも聞けて参考になった。正反対の評価になった質問もあり他職種の意見がきけた
・ 質問 19（多職種・多機関連携）をどのようにしていくかがネックなんだと分かりました
・ 社会的処方の取り組みは、本当に有益で大切な手だと感じた。基本的には 20 項目、すべてに良い影響を与えると思う。全てに良い影響を及ぼすが、同時に万能な特効薬ではいかないのかなとも感じました。質問 17～19 までを期待するのは本来の趣旨と相反する気もしました。
・ 質問 1～20 までのカードがあり、模造紙に書かれた矢印にそって配置するだけでよいので簡単で明確であった影響というより効果について考えることができた

質問2） 共有された事例は、社会的処方の実践や影響を理解するのに役立った

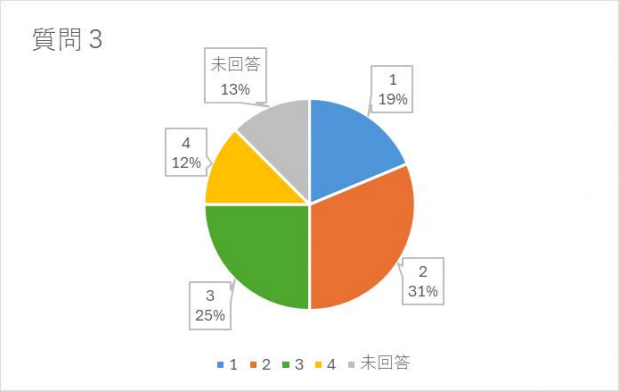
1.そう思う2.ややそう思う3.どちらとも言えない4.あまりそう思わない5.そう思わない



・8年前からの関わり、12 年以上の関わりといった事例もあり、この取り組み以前からの実践であり、支援内容や成果が目に見える形になることで、他の事例への応用にも役立つと感じた。
・たくさんの好事例をきかせていただき、普段の活動のモチベーションもあがり、あらためて関わり方や大切なことについて考えるきっかけになりました。ありがとうございます。
・全ての事例においてじっくり腰をすえて対象者と向き合い、その後も継続してかかわっていくことの重要性を改めて感じている
・高齢者だけでなく若い世代にも支援が広がっていて驚いた。若い世代から地域とつながった必要性を感じています
・もっと様々な写真があればイメーがしやすいと感じました
・他機関の取組が聞けて関わりが良く見えました
・同様に事例の共有する機会を設けることが重要
・親の困り感が子どもに大きな影響を与えそのことにより子どもへの支援も必要になる恐れがあると感じた
・つながりが非常に大切であること

質問3）改善策の検討を通して、自身の業務や相談支援・参加支援・地域づくりへの関わり方を見直すきっかけになった。

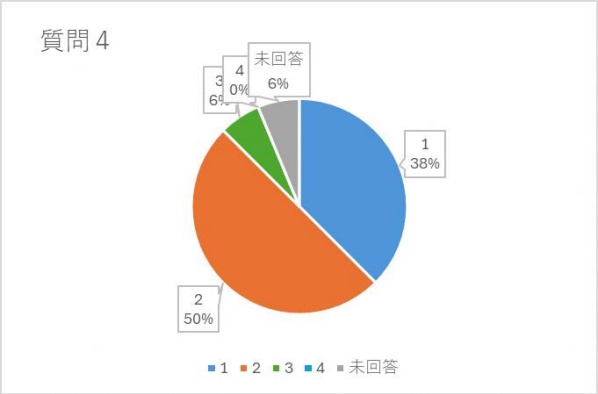
1.そう思う2.ややそう思う3.どちらとも言えない4.あまりそう思わない5.そう思わない



・そこまでの検討にいたらなかった
・改善策は次回に持ち越された。良い策が出るか、次回までに頭を回転させたい。
・もっと話しをしたかったです
・各部署の社会的処方の取組みを知ることができて良かったです。各分野の関わりを知る機会（報告会）を増やし、市内での社会的処方の取組みの認知度アップをぜひ図ってほしいです。又、この評価検証結果の報告を楽しみにしています。
・改善策まで話が及びませんでした
・学校教育課（子ども学び課）としてどう携わるべきか正直まだ見えてきません。もう少し理解が必要なのでしょう。
・まだそこまで話せていない

質問4） 本日のワークショップ全体の満足度について教えてください

1.そう思う2.ややそう思う3.どちらとも言えない4.あまりそう思わない5.そう思わない



・立場によって社会的処方の評価は変わるなーと思った
・グループでの話し合いの中で誰もが同じ回答を出していたことが1つ課題なのかなと思った。その課題を解決していくために何が必要かをもう少し話し合う時間があればと思った。
・様々な意見が聞けて良かった
・養父市の全体像が見えてきたと思いました
・もう少し意見を出し合い、内容を深めたかったが時間が足りなかった。たくさんの事例が聞けて良かったです
・少しずつ知見を広められているのかなと自身を振り返ります

⑶ 第3回目ワークショップ 結果まとめ

① 実施概要

日時	日時：2025年12月8日（月）15:00～17:15
場所	老人福祉センター ２階 集会室
参加者	庁内関連部局、外部連携機関、コミュニティナース、社会的処方事業推進キーパーソン主にケア・対人支援に関わる関係者計19名が参加。
プログラム概要	1） 開会あいさつ・趣旨説明 2） 本日の流れと第２回ワークショップの振り返り 3） グループワーク①「支援者の負担感が増えること」について 4） グループワーク②「改善策と強化策の検討」 5） ロジックモデルについて 6） 閉会の言葉
グループワークの内容	目的は、これまでの評価の流れと結果を共有することと、支援者の負担感が増えることへの対応策と、これまでの社会的処方の取組をより良くするための方策（改善策・強化策）を検討することであった。付箋と模造紙を用いて意見出しを行った。
主な成果物	グループワーク①「支援者の負担感が増えること」で使用した模造紙・付箋のデータ・写真 グループワーク②「改善策・強化策の検討」で使用した模造紙・付箋のデータ・写真

② グループワークの模造紙の写し

12/8 HIA 第3回WS
テーマ②

足を運ぶ
たびたび
※1回で
あきらめるのダメ

チャット
オンライン
SNSの活用

「おすそわけ」

②支援やつながりのきっかけづくりに関すること

課題	同意取得の壁	本人の同意が得られない
		同意を取る難しさ
		同意が得られないからつなげない
	受け入れ拒否や無関心	本人が受け入れを拒否
		無関心
		関わりを避ける
		人まかせ
	個人情報保護の壁	個人情報のハードルがある
	おせっかいに対する壁	仕組みとして「おせっかい」できない
		「おせっかい」に対するネガティブイメージ
		気にはなるがどうしていいか分からない
		きっかけがないと訪問できない
		中に入る支援が難しい
		支援をほっとく
可能性	情報収集・理解	その人の情報を収集する
		孤独の背景を聞く
		見守りが必要
	アウトリーチ・見守り	アウトリーチが必要
		身近な人の話聞き声掛け
	信頼関係の構築	全く関係のない話から関係づくり
		スモールステップ
	段階的支援	身近なことから
		小さいところからつながる
	タイミングの尊重	タイミングを待つ

・書き置き
・留守電メッセージ
残す

・待っててはダメ
アクションをかける

・個人情報の難しさ

・地域のつどいの
場にでむく

・ポジティヴヘルスの活用
得意なことなど

・最初は拒否があっても・・・
・「関わってもらえて
嬉しかった」

・あいさつ
声掛け

・自分が行けなくても
協力者をつくる

・つながっている人
・話せる人を知る

・回覧板などを
顔を見て
あいさつをする

・顔なじみになることで
声がかけやすくなる

・少しずつ深い関わりを
深める
（ムリじいはしない）

12/8 HIA 第3回WS
テーマ③

つなげ先を
たくさんもっておく

専門職
役割として重要
（なくならないで）

つなぎ先をたくさんもっておく

つなげる業務を
丁寧スムーズに

つながり続けなくてもよい

当事者

当事者の主体性

複数人で関わる

特定の方に
依存しない

人的資源が少ない

つなげ先としての
社会資源をつくっていく

マッチングすることが
リスク、、、

専門職とは?

判断力
（優先順位）

振り分け（適切な）

③継続的なつながりづくりに関すること

課題	継続的なつながりの難しさ	継続的に関わることが難しい
		関わった後の継続的な関わりの難しさ
可能性	主体性を引きだす関わり	本人の主体性を引き出すこと

12/8 HIA 第3回WS
テーマ④

つなぎ先がやってくる(移動式
ex:コーヒー販売、
ヨガ、本、コインランドリー

役割が持てること
サポートする人がいること大切

・診療所で作品展示会

作品の自慢大会

新しい場所にひとりで
参加するハードルが高い

・作品
しゅみの教室の
先生にPtが
なる
=役割ができる

・しべり場
コーヒー
⇒診療所で

常連気が分かるもの
一緒に行ってくれる人が
いれば

利用料金だけでなく
何の目的で
移動支援を使うのか
が大事
（ex.楽しみなこと）

移動支援のプロモーション
例えば、おためし利用
できるなど
（2000pt活用）

④参加支援に関すること

課題	移動手段	移動手段どうする
	つなぎ先の情報	つなぎ先どこ?
可能性	つなぎ先の選択肢	居場所
		たくさんの引き出しを持っておきたい
		文化・芸術作品が外出のきっかけに
	できること・役割	役割
		自分にできることを見つける
	本人主体	「本人がどうしたい?」が一番大事
		その人が本当にどういうことがしたいのか
	コーディネート機能	つなぎ

・発表の場を多様につくる

・ポジティヴヘルスの
活用
（やってみたいこと
得意なことを見つける）

・アナログ志向の方も
同じ情報量が
見られるように工夫

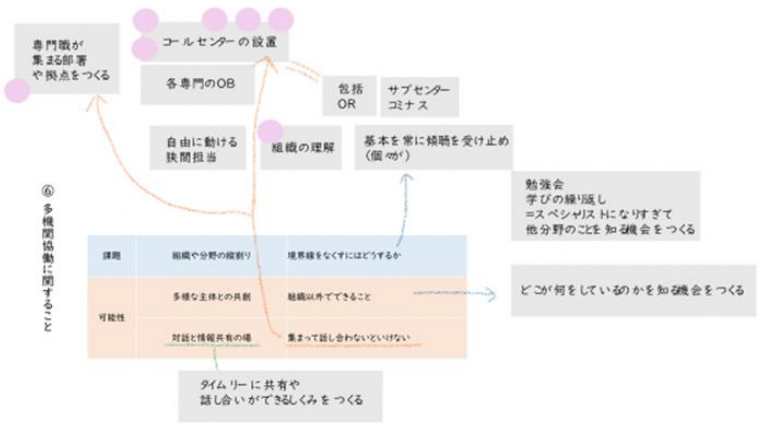
・つなぐ先の普及・啓発
・自分でもおっておくことが大事

・つながるDAYYABUの活用

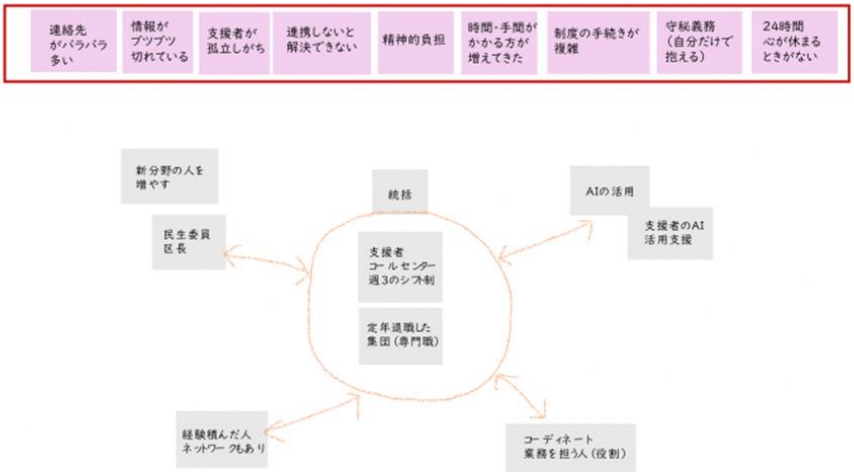
・デジタルの活用
高齢者さんのスマホ教室等

12/8 HIA 第3回WS
テーマ⑤

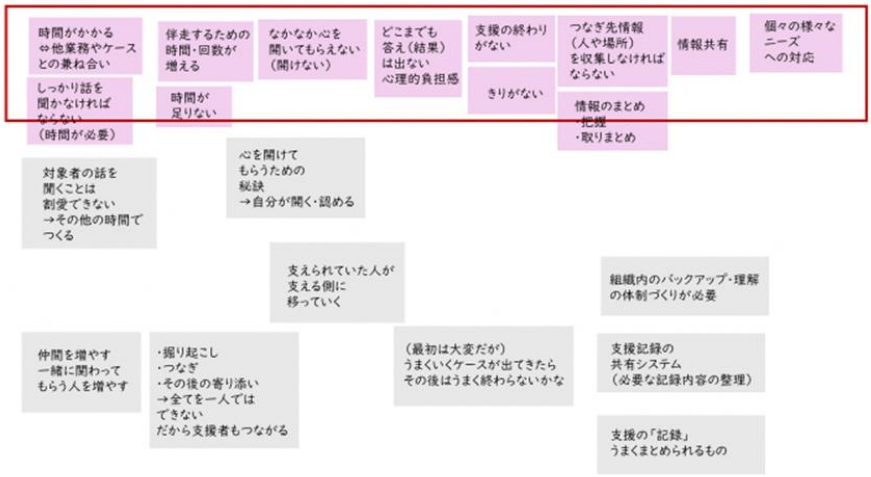
12/8 HIA 第3回WS
テーマ⑥



12/8 HIA 第3回WS
支援者の負担感が増えることについて
グループI



12/8 HIA 第3回WS
支援者の負担感が増えることについて
グループ2



12/8 HIA 第3回WS
支援者の負担感が増えることについて
グループ3

12/8 HIA 第3回WS
支援者の負担感が増えることについて
グループ4

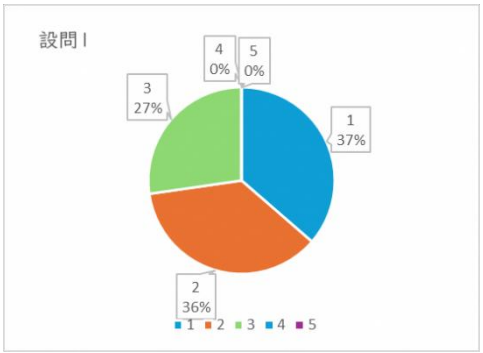
③ 当日の写真

④ 事後アンケート結果

参加者数 19 名　回答者数　11 名（回答率 58%）

質問1）　本日の説明「これまでの評価の流れと結果について」はいかがでしたか？

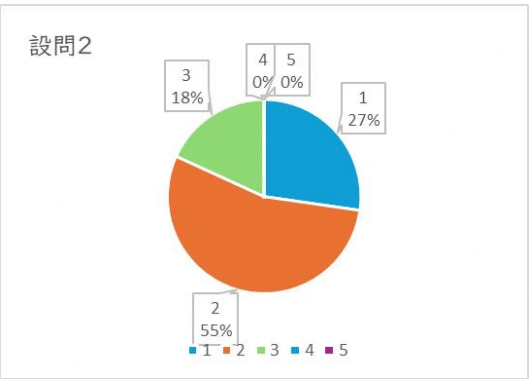
1.理解できた 2.やや理解できた 3.どちらとも言えない 4.あまり理解できなかった 5.理解できなかった



・ 伝えたい点を 1～2 個に絞った方が理解しやすいです。先に結論がある方が頭に入ってくるのでありがたいです。
・ なんとか理解できました
・ 結果が数字になっており分かりやすかったです
・ 膨大なコメントや意見を短時間でまとめられていた事すごいと思いました

質問2）　本日のグループワーク②「改善策や強化策の検討」を通じて自身の業務や相談支援・参加支援・地域づくりへの関わり方を見直すきっかけになりましたか？

1.そう思う 2.ややそう思う 3.どちらとも言えない 4.あまりそう思わない 5.そう思わない

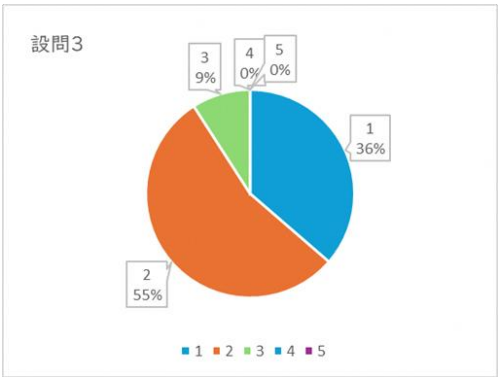


・ いろんなポジティブな意見が見れて良かったです
・ 課題が相談者により様々であるので、多様な考えで支援したいと思います
・ 皆さん同じ想いや意見を感じてることが知れた。ネガティブ思考にならずに一歩踏み出すことが大切だと思った
・ 色々な意見を聞くきっかけや、前向きなこともたくさん聞くことができて、社会的処方推進のために改めて自分にできることを考えるきっかけになりました。

・ 改善策や対応策を制度や施策と結びつけて考えてしまいがちだが、もっと身近なところに策を見出すことでより解決力が増すのではと思えるような意見がたくさん出ていたと思う。

質問3） 本日のワークショップ全体の満足度について教えてください。

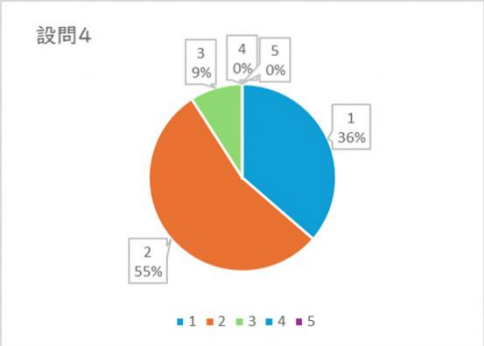
1.満足 2.やや満足 3.どちらとも言えない 4.やや不満足 5.不満足



・ 最後にシールを貼るのが難しかったです。誰か説明者がいると分かりやすいと思います。
・ 言語化することは大切だと思えた

質問4） これまでの 3 回のワークショップはいかがでしたか

1.有意義であった 2.やや有意義であった 3.どちらとも言えない 4.あまり有意義でなかった
5.有意義でなかった



・ 今後も参加続けたいです
・ 難しいテーマをここまで可視化できたのは良かったと思う
・ 課題に対する解決策、色んな人から色んな発想や意見が出てきて楽しかったです。事例検討会をすると、良い意見や解決策が出てくるかもと思いました。ありがとうございました。
・日頃の業務の中ではじっくり話すことのできないメンバーとのワークを通じて顔見知りの関係性を深めることができたことはよかったと思う。今回のワークショップの結果が活かされることを願います。
・見える化するイメージがなくて難しい作業だったと思います。お疲れ様です。